

世界中に

水道の蛇口をひねると、きれいな水が当たり前のように出てきます。ですがこれは日本だけなのです。外国は蛇口をひねっても、新鮮できれいな水は出てきません。では外国ではどのように、水を手に入れるのでしょうか。外国では毎日遠い道のりを歩き続けて水の重さにたえながら水を手に入れていきます。遠い道のりを歩いて手に入れる水はきれいな水、ではないんです。やっとの思いで手に入れた水は泥や細菌、動物のふんなどが混じった危険な水です。このような水を浄水処理をしないまま飲んでしまうと、抵抗力の弱い子どもたちは下痢を起こしてしまいます。汚れた水が原因で下痢を起こしてしまい命を落としてしまう子どもは年間三十万人、毎日八百人以上います。やっとの思いで手に入れた水は、命と未来を奪ってしまいます。

山添村立山添中学校 二年

浦 愛佳

そして一日で手に入れることのできる水の量は約五リットルです。私たちが一日に使う水の量は約二百八十九リットルです。比べなくても分かるぐらいの少しの量の水しか手に入れることができませぬ。手に入る水の量が少ないため、身体や生活環境が清潔に保てなくなり、子どもたちは肺炎など、さまざまな病気にかかりやすくなってしまう。なぜ同じ地球に住んでいるにも関わらず、日本と外国では大きな違いがあるのでしょうか。主な原因は経済の発展などによる森林破壊が原因とされています。日本も経済が進んでいくと、水問題が出てくるのかなと思います。そして、今自分たちに出来ることは何なのか。私たちに出来ることは小さなことかもしれないけど、たくさんあると思います。

まず一番大事だと思うのが、今の世界の現状を知ることです。私たちが住んでいる以外の地球のことを知ることが自分たち出来ることを考えることが出来ます。

次に節水です。水も限られている地球の資源なので大切に使わないといけません。手を洗う時はこまめに水を止めたり、お風呂のお湯を洗たくに使う、トイレを流す時、大小のレバーを使い分ける、洗顔の時洗面器に水をためて洗ったりするなどがあります。

私の家では、掃除のとき、水や洗剤を使いすぎに注意したりしています。洗剤をたくさん使うとそれだけ流すための水が必要になります。節水は誰でも簡単にできることです。小さいことが誰かの助けになるかもしれません。

そして、募金です。スーパーのレジなどによく置かれている箱を見たことはありませんか。あの箱はユニセフの募金活動です。全員がすることは難しいかもしれませんが、ですが少しのお金で一人の命が助かるかもしれません。私は募金活動を見かけたら、少しでも協力しようと思っています。

二千三十年までに世界中すべての子どもが身近な場所できれいな水が使えるようになることをユニセフは目指しています。

身近で新鮮、きれいな水を手に入れることは当たり前ではないのです。世界中すべての人がきれいな水を手に入れることができるのは難しいかもしれませんが、でも、私たちができることをしっかりと行い、世界の現状を知ったら目標は達成できるかもしれません。私たちが毎日きれいな水を手に入れることができるといのは本当に幸せなこと、感謝しながら生活していきたいです。また自分たちが出来ることを積極的にしたいと思えます。